

月刊神戸っ子主催〈第11回〉

神戸文学賞発表

昭和五十一年、小誌は創刊15周年記念事業として、作家を志す有為の新人に新しく道を開くとともに、西日本における文学活動のいっそうの発展のために「神戸文学賞および神戸女流文学賞」を創設いたしました。

第11回目にあたる今回より、さらなる質の向上を図り、「神戸文学賞および神戸女流文学賞」を一本化し、さらに、作品募集地域を全国にさせていただきますことになりました。

第11回作品募集は、昨年9月末に締切り、全国各地から多数の応募がありました。別記の選考委員により最終選考を行い左記の作品が第11回の受賞作いたしましたのでここに発表いたします。

なお、授賞式は昭和六十二年一月二十日(火)午後六時より神戸風月堂ホールにて行います。

□神戸文学賞受賞作品

「瞑父記」

田能 千世子〈たののちよこ〉



△略歴▽

大正9年、神奈川県生まれ、大阪府女子専門学校
 (現大阪女子大学)卒業。「柳絮」の同人を経て現在
 は「とほす」同人。大阪女性文学研究会副代表。
 大阪府茨木市在住。

△受賞の言葉▽

思いがけない賞を頂き喜んでます。この作品は父
 へのレクイエムとして、一度は書きたかったもので、
 この作品で受賞出来たことを大変喜ばしく思っ
 ています。今後の一層の励みとさせて頂きます。

□神戸文学賞佳作「炎の彩管」矢口 耕一

□最終選考候補作

「ちよつとちよつと」

松原澄子
 △奈良県北葛城郡▽

「炎の彩管」

矢口耕一
 △横浜市▽

「マインド・ゲームズ」

矢部由香里
 △鳥取市▽

「波斯の忠臣」

菊池道人
 △横浜市▽

「明日ゴールドバヘ」

池田侃子
 △山形県下巻町▽

「東京遊戯」

竹内雅
 △東京都世田谷区▽

「妄想研究室」

服部四郎
 △京都府乙訓郡▽

「瞑父記」

田能千世子
 △大阪府茨木市▽

□選考委員

小島輝正
 川端柳太郎
 島京子
 杜山悠

主催 月刊神戸っ子

●第十一回神戸文学賞受賞

田能千世子

たのう・ちよこ（主婦）

女の時代を生きる

本年度から「神戸文学賞」と「神戸女流文学賞」が一本化され、新たなスタートを切った第一回目の受賞者である。いわゆる主婦作家。同人誌には何度か投稿し、「人形天使」という著書も出しているが、文学賞は初受賞。

過去には教師をしていたことや、新聞社の編集の手伝いをしたこともあるが、決して片手間ではない作家活動が続けてきた。長く文芸同人誌「柳絮」の同人だったが、3年前より「とほす」に変わった。受賞作品も、その第4号に掲載されたものである。

また、その一方では、大阪女性文芸研究会の副代表で大阪の女性作家の良きリーダーでもある。女性の活躍が、ますます期待される現代において、最もふさわしい受賞者といえるだろう。（茨木市の自宅にて）



●第11回神戸文学賞選考座談会

神戸文学賞／作品の持つ品格の高さに

田能千世子「暝父記」

本誌が創刊15周年を記念して設定いたしました「神戸文学賞・神戸女流文学賞」も、昨年第10回を迎え、11年目に当たる本年は、新たな出発ということで、「神戸文学賞」と「神戸女流文学賞」を一本化し、また従来、西日本在住者だけを対象としていたのを、日本全国に広げました。

●選考委員



小島 輝正さん
＜松蔭女子学院大学教授＞



川端柳太郎さん
＜神戸大学教授＞

日本はもちろんのこと東日本地区からの応募も多数あり、選考の結果、「ちよっとちよっと」（松原澄子）「炎の彩管」（矢口耕一）「マインド・ゲームズ」（矢部由香里）「波斯の忠臣」（菊池直人）「明日コルドバへ」（池田侃子）「東京遊戯」（竹内雅）「妄想研究室」（服部四郎）「暝父記」（田能千世子）の8篇が受賞候補に残っております。

★例年になくバラエティーに富んだ8篇

A まず岡倉天心を扱った矢口耕一の「炎の彩管」ですが、この作者は、いろんな賞で最終候補に残って、そこで終わってしまうことが多いんじゃないかな、という気がします。というのも、資料をそのまま載せている所が多い。

B そう、地の文が出てしまう。

C 資料を一生懸命に調べているから、それを書きたいのは分かるんだけど。話の後半は面白かったですよ。

B ちよっとと長舌が多過ぎるんだな。

A そうですね。綿密に調べるのはいいけれど、調べた事実が面白いから、それに乗っけてしまって、自分の言いたいことを忘れてしまう。よくあることですが。

D どこから資料で、どこまで小説か分からないところもあるし。敢えて小説にする必要はなかったんじゃないかなという気がします

A 歴史的な事実をいくら追っかけても。歴史は歴史家にまかせておけばいいんですから。しかし、私としては、この作品に捨て難いものを覚えます。

C 確かに読ませる力量はありますね。

B 菊池直人の「波斯の忠臣」は同じ歴史物といっても、西洋の話ですし、作者も25歳と大変若い。

D 発想は大変面白い。松本清張の「砂の器」のような感じで。古代史ブームもちよっと入って。

A でも恐いのは、案外と劇画にこういう話があったりして（笑）。



杜山 悠さん
＜作家＞



島 京子さん
＜作家＞

こちらは劇画なんて読んでないから、「こんな話ありましたよ」と言われるまで分からない(笑)。

D 題材としては、すごく面白い。いっそ、もっと波瀾万丈だったら良かったのに。

B 僕は、やたらに「ノ」ばかりが目について。どうもいけない。

C この人は「若年寄」だと思ふ。忠臣のとらまえ方が古い。現代風ではないね。

A 一言苦言を。誤字・脱字はちゃんと直しておいて欲しい。

B 竹内雅の「東京遊戯」はどうですか。書いたのは22歳の若い人ですね。

D 最近の若い人には、このような小説が多いですよ。カタログ文化の批判を意図しているにも関わ

らず、本人達がカタログになってしまっている。

A 2つの話を同時に進行させる形態は、昭和30年頃に流行しましたね。やはり、ある程度は成功するんですが、大体は成功しないんですよ。読み手は一人ですからね

B イリュージョンが何で入ってくるのか。入れないと気がすまないだろうね。しかし、読む方からすると、もう一つ良くない。

C それでも、若い人の考え方の一面が分かって、読んでみて結構面白かった。

A 服部四郎の「妄想研究室」は題材がちよっと汚ないですね。汚ないということ、やっぱり戴けないですよ。

D 上手い下手より、汚ないのはちよっとね。

C スカトロジョーものでも、こんなに汚くない(笑)。もっとマシですよ。

A こんなことを言う「あいつらは選者なのに汚ない位が何だ」と言われるかもしれませんが、やはり汚なすぎるのはね。

C 女の人の書き方なんか、面白いなと思ったんですけれど。

B 面白いところはありますね。作者は、理科系の人だと思います

C だからただの思いつきばかり、とは思いませんけどね。でも、これだけくどくて、無

駄が多いというのはチョットね。同じような話が何度も出てくる。

B 科学的な根拠が有るか無いか分からないけれど、メタンガスがどうか、そういうところを面白がって読めば、読めると思いますが。

D これは、面白くしようと思ったら、社長の妄想癖を書くこと良いと思います。社長の妄想について引きずられて行く、とした方が良くない

A いっそレポートに書いた方が面白くないですか(笑)。

B 矢部由香里の「マインド・ゲームズ」ですが。

C これは戯曲にすれば良いのに。舞台劇みたいなもんです。人がひとつも動いていませんし。

A この作者には、もっと他のものを書いて欲しい感じだね。

B この作者、もっと違う題材の方がうまく書けるような気がする。まだ若いしね。

A すごい感情が裏側へ、裏側へ回って、非常に力がありますね。D 「俺、俺は」が目について。

かなり無理してる。会話が東京弁で、今はこんな言葉、東京でも使わない。

C ちよっと気負った感じがあって、その気負った部分がやりきれない。もっと淡泊に書けないかなと思う。

A 理屈が多い。

D ジョン・レノンへ、レポート

してるけど、その必然性が無い。必然性が出てこないといけない。

しかし、場面作りは上手いですね。演劇的素養のある人だと思う。

A こんな人が、掃除して、夫にご飯を作って、子供や夫を送り出して、と言った普通の主婦の日常を書かせたら、どんなふうを書くのか、いつも興味を持つんです。

だからもう一作、もっと別の書いてもらいたいと思います。

C もう少しシヤレた所がないと。

D 会話そのものが、何か刺激を与えてくれないもの足りない。

A 松原澄子の「ちよっとちよっと」は原稿としては、キチンと書いてありますね。

C 一生懸命に書いてあるのは分かりますね。原稿が綺麗ということ、大切なことなんですよ。

D この人の文章から、背景にチラチラと、ものすごく苦労したのが何となく分かるんですが、その割には明るい。

A 話自体は結構悲惨なのに、悲慘に書かない。

C これが本音なんでしょうね。ただ、文章が未整理なような気がします。

A 主人が子供を連れて出て行ってしまった。その出た子供の側も書かないと、この人一人、いい顔

をしたら困る。

B 筋の運びが無計画なんですね。書いてるうちに、あれも、これもと欲ばってしまっている。

C もうちよっと書き直したら、もっと良くなりますよ。

B 会話の文も長すぎる。

C それと、何度も息子が美男子だと出てくるけれど、自分の息子を誉めてばかりいるのは、何かいやらしいですよ。

A 無用心に人物を出し過ぎる。出てきた人物が、後で重要な役割を果たすと思っていたら、いつの間にか消えてしまうというのがある。

A 田能千世子の「瞑父記」は、芥川龍之介が出ているせいかもしれないけれど、一番好きだね。

C 私は、この作品を読んで、失礼な言い方かも知れませんが、人間一生に一度は、良い作品を書けるといわれる。まさにこれがそうだな、と思いましたね。

B 過去において神戸文学賞にも応募しているが、確かに作品の出来栄はいい。

A 多分、これは事実を元にしてるんだろうけれど、もし全部創作だったら、これは大したものですよ。

D これは多分、本当のことだと思います。

C 芥川のとらえ方が、ちよっと

浅いんじゃないか。芥川を知らない人が読んで、この作品のようにとられると困ってしまう。

B 今回の作品の中で、一番読ませてくれた作品でしたが、ちよっとまとまりがない所、無駄な所があって、分かりにくくなっているのが残念。

D 「明日ゴールドバヘ」の池田侃子ですが、全体としてはシヤレている。

A しかし、整理が悪い。

C 精神年齢が若々しい。文章が明るいですね。

B 作品のテーマが、いかにもありそうで、もう一つ面白味が足りなく感じましたね。

A 本人の経験というか、実話だと思うんだが、それを人に話すなら、もう少し工夫しないと。

B ひと通り見て来ましたが、候補作品の中では「瞑父記」が頭ひとつ秀れていると思うんですがね

D 全体を通して無駄な部分もあるけれど、作品の持つ品格の高さとか考えると、受賞作よりはこれではないかと思えますね。

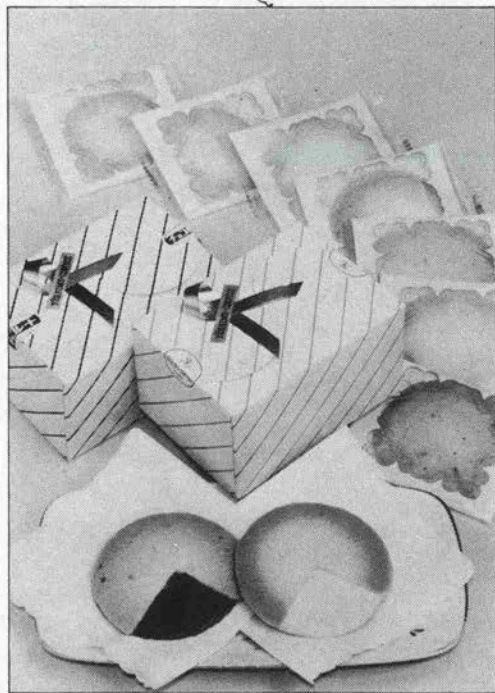
C 同感です。ただ「炎の彩管」も努力賞には価すると思う。

A それでは、神戸文学賞は、田能千世子の「瞑父記」に決定というところで、資料に敗けている部分もあるが「炎の彩管」を佳作ということにしましょう。

可愛いおみやげ

ランゲール

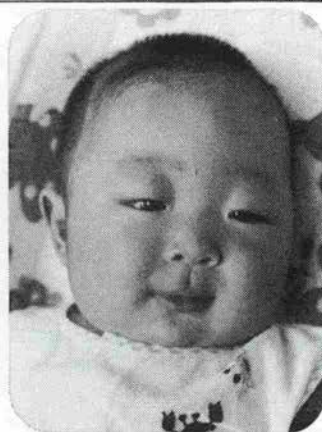
チョコ&ホワイト ¥350



—— 北 欧 の 銘 菓 ——
2-HEIM-CONFECT

本社・神戸市中央区熊内町 1-8-23 ☎221-1164

こんにちは赤ちゃん



岡 田 良 磨くん / 西宮市老松町

ぼくはパパ似なんだよ

完全看護★冷暖房完備★病院前公共駐車場有

芦屋 柿沼産婦人科



芦屋市大栴町 1 番 18 号

芦屋保健所東隣

☎ 芦屋 (0797) 31-1234 代表

あいじんくーないしん
「愛人類」の登場。今年注目の種族。
①新人類との旧人類の融合は、今や女子自立。
②恋愛も、その融合の過程で、新たな形に。
③「これぞ知性」の融合の過程で、新たな形に。

新春特別企画
化身 毎週月曜夜10時

〈出演〉 津川雅彦 和由布子 高橋悦史 佐藤友美 ほか



話題のひろば

<I>

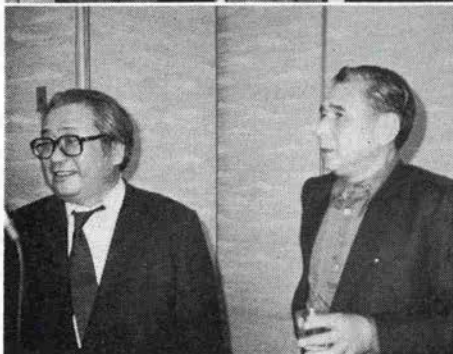
■“首都消失” 完成披露パーティー SFパニック超大作 首都消失” 完成

日本の首都、東京が高さ二キロ、半径三十キロの謎の雲に突然覆われ、首都機能が全くマヒし、日本は、重大な危機に陥る。

関西TV、徳間書店、大映が製作、東宝配給のお正月第二弾ロードショーSFパニック超大作“首都消失” 完成を祝して、十一月二十八日（金）試写会と披露パーティーが華やかに開かれた。

梅田スカラ座での試写上映前に舛田利雄監督を先頭に主演の渡瀬恒彦、名取裕子らが舞台挨拶した。舛田監督は「映画は映画らしくあまり深く考えないで、気楽に楽しんでください。SFを駆使して撮影した『雲』が、この映画のもう一つの見どころです」。スピーディーなドラマ展開と、たたみかけるアクションシーンの連続でなかなか楽しませてくれた。

試写会の後、会場を新阪急ホテルへ移し披露パーティーが開かれた。会場へは、“首都消失”で'85年度日本SF大賞を受賞した小松左京氏、映画評論家浜村純氏、タレント、横山ノック氏らが顔を見せた。「ほんまにおもしろかったですわ。『雲』の正体が最後まで明かされず、『雲』の中の様子もわからへんのがよかったですね。」と落語家、桂米朝氏がお祝いを述べた。「首都消失」は一月十七日より東宝洋画系劇場で一般公開される



梅田スカラ座の舞台上での舛田監督のあいさつ（右上）パーティ会場であいさつする山口興一関西テレビ社長（右下）主演の渡瀬恒彦と名取裕子（左上）原作者小松左京氏とお祝いにつけつけた桂米朝さん（左下）

ハイセンスな紳士服で
最高のおしゃれを



三恵洋服店
神戸・元町4丁目 ☎ (078) 341-7290

あけまして
おめでとう
ございます



1987

元旦

本年もどうぞよろしく
お願いいたします



和紙ちぎり絵

しゅんこう

代表取締役

中野 肇

神戸市中央区浪花町59 朝日会館

☎ 078 (332) 2612

話題のひろば

<II>

■新形式パーティシンポジウム 美味しんぼと 日本一のソムリエが 食文化の真髄に迫る



写真左上／究極の味を語り合う風景／右上、コーディネーター角田氏、中央木村ソムリエ、左上雁屋氏／下二段四枚は、神戸の美味と美酒、ワイン味わいながらのパーティシンポジウム風景

神戸経済同友会中堅会員懇談会は、文化情報産業が次の時代を担う先兵になり、神戸経済の活性化をと、ユニークな新形式のパーティシンポジウムを十一月二十日、神戸ポートピアホテルで開催。

テーマは「食文化の真髄に迫る」コーディネーターは角田嘉宏さん（神戸経済同友会幹事）。

パネラーは「究極の味」で人気沸騰に本人も驚いているベストセラー「美味しんぼ」（劇団）の雁屋哲さんと、片やソムリエ日本一（世界四位）の木村克己さん（神戸ポートピアホテル レストランアラン シャペルシェフ・ソムリエ）。参加した一五〇名のメンバーには、白鶴、八重樫、沢の鶴の吟醸酒が、明石鯛料理に合せて出されたり、ドイツのアルザスの赤ワインと、この日が初ものというヌーベルボジョレーなど、ワインとビーフのたたきなどの料理を味わいながらの食談義。雁屋さんは「フオアグラ、キヤビア、かわはぎの胆など手に入りにくい珍味は活力だ。安全でおいしい食べものになるほど美味しくない。便利で経済的な食卓を考えると大事な精神を失う。究極の味は「本物時代の味」と。また木村シェフは「植物や動物の生命を奪って、人間の肉体を育くむ食生活は、自然への感謝が大切。美味しいものはファッションではなく、自分や子孫の身体を創るのが本当の食文化」と語った。

（編集部からの提案／灘の酒も新酒の日をイベントにして神戸名物にしてほしいなあ）

■中井一夫さんの叙勲を祝う会

97歳

なお現役！



(左上)坂井元兵庫県知事、金井兵庫県立近代美術館館長と共に(右上)祝辞に駆けつけた砂田議員・左上、貝原兵庫県知事・右上宮崎神戸市長・左下、奥村兵庫県公安委員長・右下(左下)会場風景(右下)勲一等瑞宝章を受章した中井一夫さん

元神戸市長で弁護士の中井一夫さん(97)が、この度栄ある勲一等瑞宝章を受章され、その「祝う会」が11月27日、神戸ポートピアホテルの借楽の間で催された。

中井さんは明治22年生まれ。昭和3年に衆議院に初当選して政界入り、昭和20年に神戸市長に就任した。その後再び衆議院議員を経て現在に。97歳の高齢にも拘らず現在も現役弁護士として法廷の第一線で活躍、その長年の功労がたたえられ今回の受章となった。

当日は約600名の旧友や後輩たちが集まり、ポートピアホテル一の広さを誇る借楽の間が満員になるほどの盛況ぶり。中井さんの広い交友関係をうかがわせた。

会はず、発起人代表の宮崎神戸市長が挨拶。次に、貝原兵庫県知事、砂田衆議院議員、石野神戸市商工会議所会頭らが祝辞の壇に立ち、さまざまなエピソードを交えて中井さんを紹介した。

それに対し中井さんは、「今回の受章は神戸市民、兵庫県民に与えられた荣誉である」と挨拶。また、「3年後の市制100周年には私もちょうど100歳。その時は必ず私が乾杯の音頭をとります。弁護士はウンをつかないのが建前ですから、あと3年は頑張らない」とユーモアたっぷり。その饗宴とした話しぶりは場内を驚かせた。

話題のひろば

<IV>

坂井知事に感謝 する夕べ開く

■白いタキシードも清々しく



左上は中井一夫さんと坂井元知事夫妻／右上は白いタキシードもさわやかに坂井さん／洋上大学の卒業生がオープニングの唄を（右下）ごろうさまと坂井さんに声をかける服部正、土井芳子、望月美佐、行吉哉女さんたち

「十六年間は永いといわれますが私にとって毎日が緊張の日々で、あつという間でした。高度経済成長の時期から公害、環境破壊、石油とドルショックなどの問題が起り、心がずさんでいた中で、愛と誠意の県政を進め、徐々理解されました。今は清々しい気持です。この度の叙勲で陛下より「健康に留意して努力せよ」とお言葉を賜わり、八十六才で政務につかれる御姿に励まされました。明日よりはよきことあらんと生来の楽天的ロマンティストで頑張りたい」と、白髪に白いタキシードもさわやかな坂井時忠氏。兵庫県知事としての永年の活躍と勲一等瑞宝章の受章を祝う集いが、十二月四日神戸ポートピアホテルで開かれた席上でのお礼のことは感銘深いものだった。「人間中心の精神面を大切にした県政で、貝原新知事へのバトンタッチが素晴らしい」と石野信一兵庫県商議所連合会々頭。「人と自然と文化の融合を計った坂井県政の榮譽を讃え、受け継いで行きたい」と貝原新知事。「多様性のある兵庫県土を、東西緑の回廊や全県全土公園化、など人間中心の県政」と山本兵庫県議会議長。宮崎市長は「生活文化社会の実現に貢献」鯉坂二夫氏は「文化人中の文化人知事」と讃えた。坂井夫妻に感謝をと、当夜は千二百名が集まった。

★コウベ・ファッションデザイン・コンテスト
'86開催

ファッション都市神戸のPRと婦人・子供服デザイナー育成をめざした「コウベ・ファッションデザイン・コンテスト'86」が11月14日、ポートアイランドの田崎ホールで開かれた。「神戸のファッションをクリエイトする



作品
さん作品
小作さん作品
目・小作さん作品
4番目・小作さん作品
左より5番目・小作さん作品

(東京都在住)の作品が「神戸ハイファッション大賞」に、金賞には、神戸ドレスメーカー学院学生の野子まささんが選ばれた。二人の作品を含め、入賞作品はいずれも黒を基調としたボディにフィッとしたシルエツトのものがそろった。そして上位入賞作品は11月29日、国際会館で開かれたコウベファッションショー'86で発表され、ファッション界をリードする国際色豊かな神戸ファッションならではのさまざまな新作が披露された。



ギャラリーひこばえで竹原仁子さん
11月25日
30日の間
三宮ギャ
ラリーひこ
えにおい
て、布花展
示即売会が
行われた。
西宮に在住
の竹原仁
子さんによ

る教室は、現在月2回、会員20名程で行われている。アートフラワーのはか、胸にかざるコサージュ、色々なブーケはプレゼンとして、テーブルアレンジはルームアクセサリーとして最適。今回は主にリースの展示会で、壁面いっぱいには色とりどりの華やかな作品が飾られた。

■竹原仁子布花教室(アートフラワー)
西宮市松生町6-12 電話(0798)731-1958
1958 月1回又は2回 第1・3週 9時~13時 入会随時

★スイスの高級下着、関西上陸
スイスの下着メーカー、サワコ社(本社ヴェルツェル)が、来年春から日本市場へ進出することになった。



下着のみでなくナイトウェアも

サワコ社は婦人用を中心とする下着の老舗メーカーで、年間売上高は約200億円。中国シルクは安価なかわりに、黄ばむ、しわになりやすいという欠点があり、スイスシルクはそれをおさなうということで業界で注目をあびている。素材の確かさに加え、ヨーロッパデザインのスーパースリッパと、輸入とマーケティングを行うインフォメーションハウスの薬師寺さん。シルク100%のピュアシルク・ウール混のウールシルク、シルクの中に化せんを取り入れたデュノバシルクと素材も多彩。本物志向の女性たちに評判を呼びそうだ。来年春より関西一円のデパート、高級ブティックで発売予定。

★なぜか神戸の作家が創ると経やかになる：
彫金作家の横山啓三さんが、十月三十日~十一月四日まで、大丸前のたじま画廊で「休みの国」の七回目の彫金教室展を開いた。彫金と取りくんで十五年になる横山さんは「な

ぜか神戸に住む僕が創る作品は軽くなるんです」というように、新作の中のトンボ玉やガラスなどの作品と得意意の猫たちの彫金がとても美しい。
又、十二月の三日から十四日迄、甲東園の「荘園画廊」(小川啓司)で第五回個展を開き、ガラス、彫金、銀金、ワックス(顔)、トンボ、勾玉など新作、旧作とそろえた。来年は、四月末に心斎橋「泉画廊」で藍染地服づくりをする小札啓子さんと二人展を予定



横山啓三さん

★今、トアウエストがおもしろい

昔からの老舗が集まるトアロード。その一本西側の道の一角に、数年前から個性あふれる店が集まりつつあり、若者に話題を呼んでいる。その中のウェルストンビルのアンティークショップ「スリーゲル」は、たくさんの古時計が壁にかけられ、ひととき目をひく個



時計は石井さんご自身のコレクション

性派ショップだ。オーナーの石井司朗さんは、元しいたけの卸し業を営んでいた、昨年八月より今のブティック業に転じたというユニークな人。「さわつていない落着いた空間で、神戸らしいものを売っていきたい。」時計の他、アクセサリーやガラスも売っており、同ビルには石井さんの弟さんが「ネコの店」を、息子さんが喫茶店「ラ・ベトリナ」を経営している。一度のぞいてみては?

A HAPPY NEW YEAR

うつくしい時間のつくりかたを、
知っているのが大人の女性です。



serizawa
KOBE



■本店 神戸市中央区三宮町3-1-8 TEL. 078-331-1695 ■さんプラザ店 ■センター街店 ■さんちか店 ■P-4ショップ ■メンズセリザワ KOBE・OSAKA・TOKYO・KYOTO・HIMEJI

私のお気に入り——la première——

伝統の中に光る、大人のおしゃれ

お客様 = 上谷澄秀さん

オーソドックスなデザインと確かな品質が人気のセリーヌ。本来、馬具商から発達しただけに靴やバック等の皮製品にも定評がある。シンプルでスポーティ、そしてどこことなくクラシックな味わいのあるセリーヌ商品は巾広い年齢層に受け入れられている。今日のお客様、上谷さんはお寺の住職という女性には珍しいお仕事。毎日秒刻みのスケジュールをこなす、てきぱきとすすめていられる。

「会合が多いので、あまり冒険はしませんね。どうしてもカッチリしたものを選んでしまいます。それに臨機応変に着まわしできるものが多いですね。着がえる暇もなく昼の仕事から夜のパーティに、ということも多いですから。」と表情豊かに話される。「本当にお忙しい方なので、連絡をとるのに苦労しています。」とにこやかに対応される宇久店長とは知りあわれてまだ一年程のおつきあいだが、まるで友人関係のように話がはずむ。



V
Valentino Garavani
ヴァレンティノ・ガラヴァニ

CELINE
セリーヌ

Aquascutum
アワスキュータム

Gian Versace
ジャン・ヴェルサーチ

BOTTEGA VENETA
ボッテガ・ベネタ

F
FENDI
フェンディ

LANVIN
ランヴィン

GUCCI
グッチ

TRUSSARDI
トラサルディ

HERNO
ヘルノ

GUY LAROCHE
ギ・ラロッシュ

GIORGIO ARMANI
ジョルジオ・アルマーニ

MISSONI
ミッソーニ

HERMÈS
PARIS
エルメス

ROYAL SALON

パレロアリアル



ベージュのクロスと天然皮革のコンビが上品な
シリーズ / ポストン ¥65,000 ショルダー ¥90,000
セカンド ¥21,000 財布 ¥20,000

SOGO
SANNOMIYA KOBE

セリーヌらしいエレガンスを感じさせるものなどが、
びつたりだと思えます。最近の傾向として、色あ
いや柄もカラフルになっていきますので、お好みの色
でコーディネートするおしゃれも楽しんでいただ
きたい。」とアドヴァイス「仕事のストレスを解消し
てのよ。」とおっしゃる遊び心が大人のキャリアア
としておしゃれに表われているようだ。



「上谷様のよう
に、着ていかれる場
所、目的がはつき
りされているとお
薦めしやすいです
ね。」

洗練されたテーラ
ード・スーツなど



2階客間にて。モデル——「E/H/TIQUE」お客様、大西章子さん。ブラウス¥23,000 スカート¥18,000 ベルト¥5,000/いずれもE/H/TIQUE。



異人館……うろこの家

神戸で最初に公開された異人館。外壁に貼られた天然石のスレートが、ちょうど魚のうろこにみえるところから、いつのまにか「うろこの家」と呼ばれるようになりました。明治後期に外国人向けの借屋として建築され、当初は旧居留地附近にあり、その後現地に移築されたと伝えられています。北野町でも特に高台に、今もお神戸の街を見守って、悠然とそびえています。



さんちか店 (078) 321-4545
宝塚ファミリーストアー店 (0797) 73-5359
千里阪急地下街店 (06) 831-0756
須磨パティオ店 (078) 792-5652
加古川店 (0794) 25-5514
E/H/TIQUE (078) 331-0950

謹 賀 新 年

1987



この春マミーは

Quintessence

けれんみがない新しい美意識からの出発!!

雄弁さよりむしろ、無口であることの持つ賢さと奥深さを
求めていく新世代、そんな精神と美意識を、追求いたします。



女性の美意識を求めて

Mummy

■さんちか店

中央区三宮町1-10 さんちかローザアベニュー

☎ (078) 321-1358

■CARA by CARLO店

中央区三宮町1-6-2 サンブリック街

☎ (078) 332-3280

A
HAPPY
NEW YEAR '87

本年もどうぞよろしく願い申し上げます。



KOBE
Goncharoff
ゴンチャロフ

今、ジャズのたのしさ無限大！

**ELVIN JONES
JAPANESE
JAZZ MACHINE**



JAZZ HOUSE
THE FINEST IN JAZZ
SINCE 1977

木馬

ACCUPHASE
McINTOSH
JBL

木馬10周年記念ライブ

'87・1月31日(土) PM7:00、PM9:00

ELVIN JONES — DRUMS

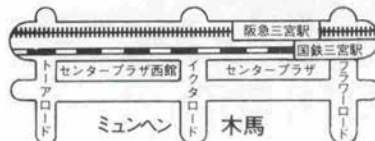
板橋文夫 — PIANO

井野信義 — BASS

高橋知己 — T-SAX

向井滋春 — TROMBONE

— 前売券発売中 —



神戸市中央区三宮町1-4
横菊ビルB 1
☎ 078-391-2505



少女像1948年頃



赤いマント1980年

小磯良平展

1月15日(祝)ー2月15日(日)

兵庫県立近代美術館

開館時間ー午前10時ー午後5時 入館は午後4時30分まで。月曜日休館
観覧料ー一般800(700)円・大高生600(500)円・中小生300(200)円
交通ー国鉄灘駅・阪急王子公園駅市バス王子動物園前下車

●講演会

小松益喜 (画家)「小磯良平さんとの出会い」1/18(日)14時
増田 洋 (近代美術館次長)「小磯良平の芸術」2/1(日)14時

★この美術展のチケットを10名様にプレゼント。希望者は葉書に住所、氏名を明記の上、神戸っ子²小磯良平展。係へお申込み下さい。締切1月10日。



おさげの女1929年

今日のライフスタイルの原型は1920年、30年代に築られました。西欧風の生活感覚の雰囲気を満たすように、ここにモダンな都市文化が誕生したのです。洋画家小磯良平の登場は、まさにこのモダン昭和の到来を告げています。1920年、30年代に花開く都市文化の新しい魅力を小磯絵画がとらえます。

多様な表現活動が繰り上げられる現代の美術界にあって、小磯芸術は揺るぎない支持を得ています。それは、小磯絵画に手仕事としての油彩画技法の粋が集められてるばかりでなく、わたしたちの眼にはまぎれもなく、同時代人によって表現された絵画世界のひとつの原点と映るからでもあるのでしょう。その原点が、常に時代を反映する鏡となって歴史の変遷を重ねてきた西洋絵画の伝統をいかにしてわが国に移入し、息づかせようとしたのかといった問題と取り組む小磯画伯のひたむきな制作姿勢にあることは言うまでもありません。

モダン昭和の表現としての初期の数々の女性像。その後、1950年代から繰り返された実験を経て、現代の具象絵画のひとつの到達点へと至る小磯芸術60年を超える歩みを、未公開作品を含めて約150点でふり返ります。

昭和63年に、兵庫県立近代美術館に待望の「小磯良平記念室」が開設されます。従って、代表作を網羅した大規模な「小磯良平展」開催の最後の機会となるでしょう。

神戸のお嬢さん 〈43〉

日本趣味の
清楚で優しい女性

有馬 知子さん
（水産庁勤務）

みんなの中にも、いつもニコニコ
落ちついて口数少なく、ほんとうにお嬢
さんらしい美智子さん。踊りが大好きで、
手ほどきは5才の時からでした。



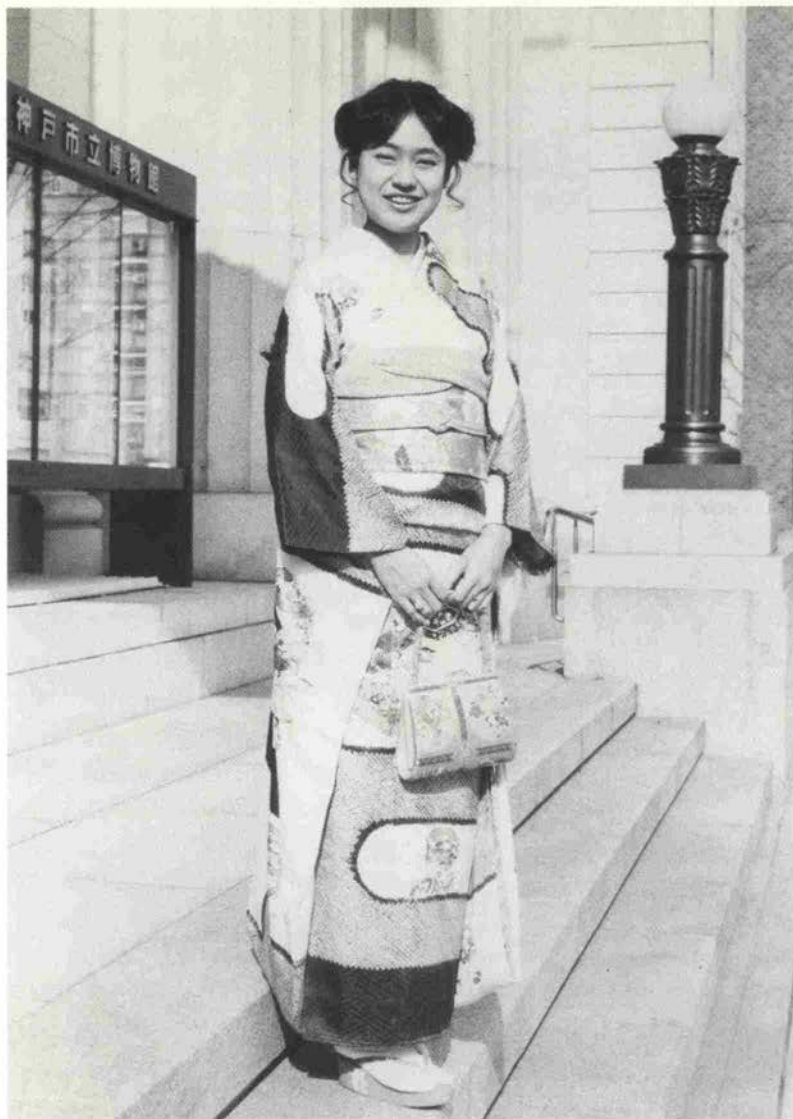
推薦者／花柳芳枝

（邦舞家）

兵庫の入江地区の婦人会長をなさって
いるおばあさまの有馬さんが有馬製帆船
の会長さんで、お父さまが社長さんとい
うファミリー。松陰を中学から大学まで通した神戸っ子です
が、目下水産庁でアルバイトするオフィスレディ。

花柳芳知尚の名取り名も持ち、お花のお稽古など日本趣味
の優しい女性です。

カメラ・池田年夫



神々のお嬢さん (44)

明るくて愛らしい 花のあるお嬢さん

日笠あい子さん (家事手伝い)



あい子ちゃんが、私の母（花柳芳一）のところへ踊りのお稽古に、おばあちゃんと一緒に通い始めたのは小学校二年生の頃からです。共に踊った連獅子の連れ舞いなど、懸命につとめた舞台が想い出されますが、今は武庫川短大を卒業してお家の「もん」（三宮生田筋）お仕事をお手伝い中。学生時代に、花柳芳重一子と名取りになり、着物の着こなしや立居振舞いもしとやかで身について来ました。

お仕事も、お稽古もしっかり身につけてステキな女性になってほしいと思います。

推薦者／花柳芳恵一子

（邦舞家）



カメラ・池田年夫